（１）主題名　公徳心　〔中学校４－（３)〕

（２）ねらい　器物損壊などの身勝手な行動は，許されない行為であることを知り，社会を構成する一員としての生き方を考える。

（３）資料名　「ささいな事柄」（出典：あすを生きる３　日本文教出版）

資料の概要

作者がタクシーに乗ると，座席が刃物で切り裂いてあった。運転手によると前に乗った若者のしわざらしいという。運転手との間に特別なトラブルはなかった様子であり，理不尽な蛮行に作者は怒る。作者は若者の行為を批判しながら，物を大切にしなければならない理由を，物を作った人との関係で述べる。

（４）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	１　物を大切にする気持ちの確認。	○自分が大切にしている物を発表しましょう。 ・プレゼントしてもらった物 ・幼い頃から持っている物 ・賞状類	○思いが込められている物を考えさせる。
展開	２　資料を読んで運転手の気持ちを考える。	○運転手が“ものうげに”答えたのはなぜでしょう。 ・やりきれない気持ち ・怒りを通り越して，考えたくもないという気持ち	○「ものうげに」や「抽象概念」「無償の行為」などの言葉の整理をする。 ○運転手の無力感に気付かせる。
	３　若者の行為を考える。	○どうして座席なんかを傷つけたのだろう。 ・理由なくやった ・むしゃくしゃしていた ・運転が乱暴で気に入らなかった ・実はトラブルがあったのではないか	○理由のない，衝動的な行為であることを確認する。
	４　作者の発言について考える。	◎作者はどんな思いで戦争中に敵を殺すよりも，座席を切る行為が残虐だと言ったのだろう。 ・作者は間違っている，戦争の方が残虐だ ・理由がない行為だから ・作った人の気持ちを考えていないから	○戦争であっても人命は尊いことに注意するとともに，戦争の残虐性を確認する。作者は極端な例を挙げていることに注意して指導する。 ○後半部分の作者の思いを細く説明する。
	５　身のまわりの状況を考える。	○校内で机に落書きをする人は，どういう気持ちで書いているのか考えましょう。 ・何も考えていない ・面白半分にやっている ・メモがわりに使っている ・別のことに腹を立ててやっている	○実態に応じて，物が壊される状況があれば併せて考えさせる。
終末	６　「心のノート」に記入し，今日の授業の感想を書く。	・なぜ公園のトイレはすぐよごされてしまうのだろう ・社会のためになる自信はないけど，迷惑はかけないようにしたい	○Ｐ９２「私が許せないと思ったこと」を活用する。

実践報告にみる留意事項

1　資料・題材について

観光地や公共施設には，時として落書きなどのいたずらがされることがある。学校では荒れの実態があれば顕著であろうが，多少の落書きはどこにでもあるのではなかろうか。

本資料は新車のタクシーの座席を切り裂くという極端な例を取りあげているが，現代社会ではこういった破壊行為も少なくないと思われる。これからを生きていく生徒には，公共の意識や公徳心の育成が急務である。

2　指導過程の工夫

中学生にとって資料のようなタクシーの座席を切り裂くという行為は，現実の生活とは距離感があり，戦争中の残虐行為を例に挙げた強烈な意見も距離感がある。

そこで，導入では現実の生活を確認し，展開前半では理不尽な行為の不当性を感じ取らせ，展開後半と終末では再び現実の生活と結び付けるようにした。

3　発問の工夫

座席を切り裂かれた運転手の気持ちを問う発問では「ものうげに」という言葉に着目して，運転手のやり場のない怒りや無力感を感じ取らせるようにした。

中心発問の「戦争中に敵を殺すよりもタクシーの座席を切り裂くほうが残虐」という部分は，作者の極端な例えではあるが，他の例えでは表現できないくらいの残虐な行為であることを考えさせる発問である。

なお，戦争が残虐なのはいうまでもなく，表面上の文字づらだけで，戦争の残虐性と比較させないように留意する必要がある。

4　生徒の反応

本校においては，資料のような極端な事象ではないにせよ，数年来落書きや器物破損の実態がある。大半の生徒は当然よくない行為だと捉えており，学習を通して物を大切にする気持ちや，公徳心を確認するよい機会となった。

・机への落書きはしないようにする
・今までは，物を作った人のことは気にしていなかったが，物を作る姿を想像した
・自分の物も学校の物も大切にしようと思った
・戦争とくらべるのは少し大げさだと思った

逆説的に用いた「無償の行為」などの言葉以外にも，全体的に表現が難しく読み取るのに時間がかかった。

5　授業後のフォローアップ

道徳の授業ではその時間の感想を書かせ，何点かを学級通信や帰りの会で紹介する取組みをしている。

今後は物を大切にし学校を大切に使うようにするために，落書きなどをしないことや丁寧な掃除を心がけるなど平素からの指導を大切にしていきたい。

（砂谷中学校）